

平成27年度 みやざき地域志向教育研究経費 概要

所属部局等	代表者
教育文化学部	戸ヶ崎 泰子
対象となる領域	地域志向教育研究経費区分
地域志向社会貢献領域	地域課題解決型
プロジェクト名又は研究名	
教職を目指す学生との協働による発達障害児に対する教育支援の実戦とその成果	

概要説明

<プロジェクト又は研究の必要性及び目的>

研究の必要性

小中学校に在籍する発達障害の子どもは、認知能力のアンバランスや特異的な行動特徴があるために、学習上のつまずきや対人関係の問題など集団生活で多くの困難を感じる可能性が高い。また、こういった様々なつまずきの背景に障害特性があると理解されずに、本人の努力不足によるものと誤解され、過剰な期待や要求、あるいは強い叱責を受けたりする。その結果、自尊感情が低くなり、自信を失い、強い学校不適応感やストレスを抱えるなどの二次的な問題も生じることがある。

このようなさまざまな問題や課題を抱えやすい発達障害の子どもを理解し、自尊心の低下や不適応を防ぐことは重要な教育課題であり、彼ら一人一人の教育的ニーズに即した支援が強く求められている。先行研究では、発達障害児の支援方法として、得意な認知過程を利用した学習支援法や社会的スキル訓練、教室マネジメントの方法などが有効であることが明らかにされている。しかし、発達障害の子どもが抱えている学習困難や対人関係の問題、認知面や情動面の問題は、相互に絡み合っており、そのことを考えるとより総合的で系統的な支援が必要と言える。

さらに、学校教員にとっても、特別支援教育に関する専門性の向上は重要な教育課題となっている。つまり、これから学校教員として子どもの教育に携わろうとする学生にとって、特別支援教育について理解を深め、教育実践力の向上を図ることは欠かすことのできないものである。本研究で取り組もうとしている発達障害児への支援に、学生が参加することは、特別支援教育のより具体的な知識の習得と教育実践力の向上をもたらすものと期待される。

そこで、学校教員を目指している学生とともに、発達障害のある小学生とその保護者を対象とした支援プログラムに取り組み、発達障害児に対する支援の効果や学生の教育実践力の向上について検証する。

研究の目的

本研究の第1の目的は、発達障害児とその保護者を対象とした、学習面や社会性の課題、情緒的問題に総合的・系統的にアプローチする支援実践の効果や有用性を検証し、特別な教育的支援の在り方を提言することである。

第2の目的は、将来学校教員を目指している学生に対して、発達障害児に対する支援や指導の在り方について、実践経験を通して特別支援教育に関する理解を深め、教育実践力の向上を図ることである。